

# 令和2年度事業報告及び 歳入歳出決算の概要

## — 全体概要 —



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# 1. 長期ビジョンを道標に、人道の実現に向けた活動へ

## 日本赤十字社が重点的に取り組む社会課題

災害や紛争から人々が守られる社会づくり

人々の健康・福祉を支える地域づくり

互いを思いやり、助け合い、尊重し合う社会づくり

VISION  
日赤150

支援の手が届きにくい  
分野への貢献

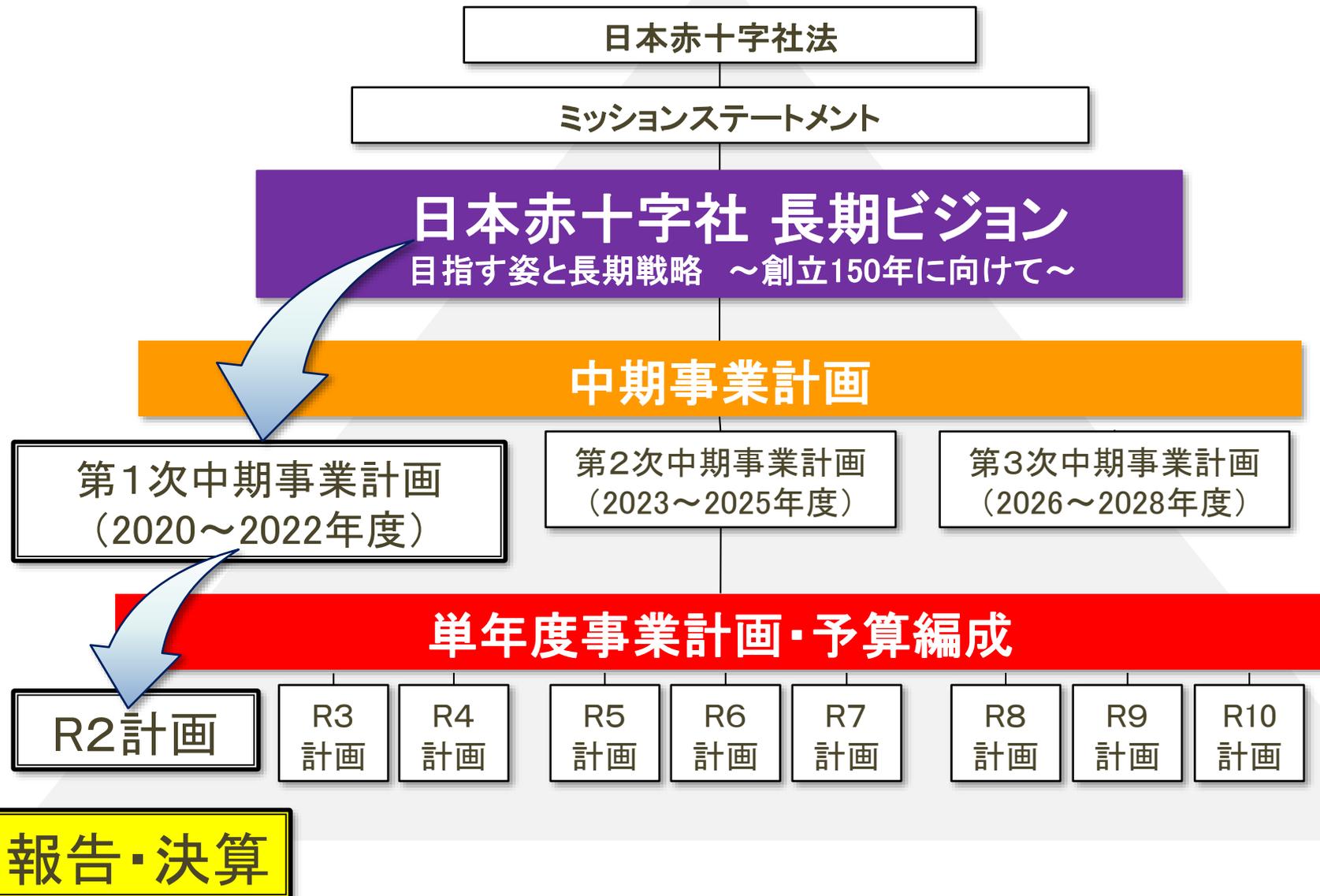
国内事業と国際事業  
の融合

地域で真に必要な  
社会活動

地域医療への  
貢献

献血血液のビッグ  
データを活用した  
社会貢献

## 2. 日本赤十字社の事業計画と事業報告・決算



### 3. 令和2年度の振り返り

令和元年度 2月 クルーズ船へ救護班等派遣

令和2年度 4月 緊急事態宣言(全国)

7月 令和2年7月豪雨

1月 緊急事態宣言(地域限定)

2月 ワクチン接種開始

新型コロナ  
ウイルス  
感染症



マスクを手作りする奉仕  
団員



緊急事態宣言下で献血の  
呼び掛けをする職員



開催方法を工夫して  
講習等を実施



感染対策を講じて診療に  
あたる救護班要員

## 令和2年11月 天皇皇后両陛下、初のオンラインご視察



モニター越しに病院視察をされる天皇皇后両陛下

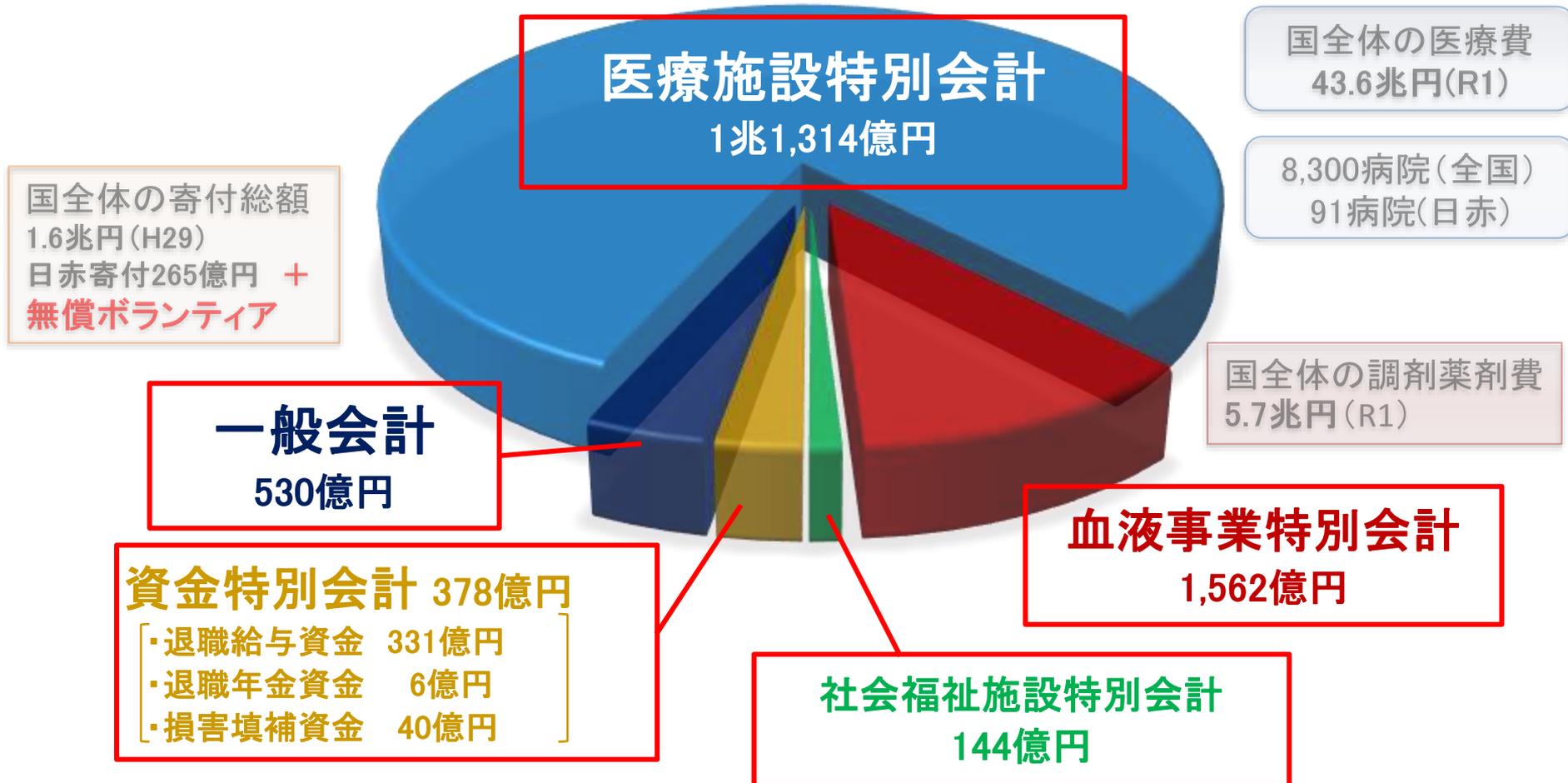


呼吸器不全時に使用するECMOの説明をする医師

## 4. 令和2年度収支決算の概要

# 総額 1兆3,930億円

(歳出決算の合算)



# 令和2年度収支決算の特殊要因

## 【歳入】

- 1 新型コロナウイルス感染症対応のための医療機関に対する補助金の交付（約1,000億円）
- 2 社資の増加（約40億円）

## 【歳出】

- 将来的な退職金支払いに備えた負債の減少（約685億円）
- 人件費の減少
- ① 退職金制度改正に伴う債務額の見直し
  - ② 日赤企業年金の資産増加（運用収益の増加）

## 5. 【救護・社会活動】 令和2年度事業・決算の概要

※一般会計(本社・支部の決算額を合算)

(1) 災害救護 89億7千万円

(2) 国際活動 19億円

(3) 社会活動(講習事業・地域包括ケアの推進等) 15億7千万円

(4) 青少年赤十字事業 4億7千万円

(5) 運動基盤強化／会員・社資 27億9千万円

(6) 運動基盤強化／ボランティア 5億5千万円



## 6. 【社会福祉事業】 令和2年度事業・収支決算の概要

収入 189億円<sup>(前期繰越分を含む)</sup> / 支出 144億円  
(社会福祉施設特別会計) 差引額 45億円

(1) 社会福祉施設の安全安心な運営

(2) ボランティアの参画促進

(3) 地域貢献活動の促進

(4) 新型コロナまん延下における福祉サービスの充実



## 7. 【医療事業】 令和2年度事業・収支決算の概要

収益的収入 1兆1,510億円/支出 1兆0,419億円  
(医療施設特別会計) 差引額1,090億円  
(国庫補助等の特殊要因あり)

(1) 新型コロナへの対応

(2) 地域医療に貢献できる病院運営の推進

(3) ウィズコロナ・ポストコロナの病院経営の在り方



## 8. 【血液事業】 令和2年度事業・収支決算の概要

収益的収入 1,646億円/支出 1,503億円  
(血液事業特別会計) 差引額 142億円

(1) 新型コロナまん延下における血液製剤の  
安定供給

(2) 需要が増大する血漿分画製剤用原料血漿  
の必要量確保対策の実施

(3) 業務全般の抜本的な見直しに向けた  
各種検討の実施

(4) E型肝炎ウイルス検査の全国導入に  
よる製剤の安全性の更なる向上



## 9. 新型コロナウイルス等の赤十字事業への影響と対応

### [各事業共通]

- 多人数の集合形式による会議やイベント・催事は原則中止
- 社内会議・研修のほか、外部参加の救急法等の講習や青少年・ボランティア事業における研修の一部はオンライン対応

### [救護・社会活動]

- 住民とのふれあいによる各種地域活動は、縮小
- 町会内募集社資は一部減少。企業・団体からの社資は大幅増加

## [社会福祉事業]

- 新規入所抑制による稼働率の減少
- オンライン面会や入所者へのオンライン観光の実施など、新たな手法の導入による福祉サービスの充実

## [医療事業]

- 受診控えなどによる患者数の減少
- 新型コロナ対応の病床確保や入院・外来患者受け入れ等、地域医療を堅持

## [血液事業]

- 在宅勤務・授業の影響等による献血者の減少
- コロナ禍の「新しい生活様式」に合わせた献血推進の実施等、必要血液量の確保